

情報処理学会デジタルプラクティス 特集号論文募集

「オープンサービスイノベーション」

● ● ▶ [投稿締切] 2015 年 8 月 5 日 (水) 17:00 ◀ ● ●

本特集ではオープンサービスイノベーションに関連した、著者ご自身のプラクティスに基づく論文を募集します。

内閣府の調査によると、日本のサービス産業の割合は 1980 年に 5 割だったものが 2010 年時点で約 7 割まで上昇しています。製造業を含めたさまざまな業界で、単なるモノの提供ではなく、モノも含めたサービス全体を顧客への提供価値として捉える考え方が重要視されています。ビジネスプロセスにおける力点も「モノづくり」(製造) からサービスヘシフトしてきており、サービスに関連するさまざまなステークホルダーや顧客との共創により、サービス全体をデザインすることの重要性が増えています。

このような中、イノベーション創出の手法として、自社内外のリソースを最適に組み合わせ、新しいサービスを生み出していくオープンサービスイノベーションが注目を集めています。

- 事業を製品中心ではなく、サービス中心で捉え直す
- ユーザをパートナーにサービスを共創する
- 内部のイノベーションを加速するために意図的に外部との知識変換を促す
- 外部に対して開放的な新しいビジネスモデルに転換する

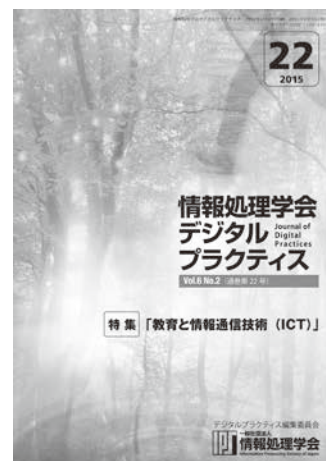
これら 4 点が、オープンサービスイノベーションのキーファクタとして示されていますが、これらを実践して、実際に新たなサービスを生み出すことは容易なことではありません。そこで、オープンサービスイノベーションの実践やそこで活用できる具体的な手法やプロセス、ツール、事例をプラクティスとして共有することで、革新的なサービスを生み出す一助にしたいと考えます。

本特集号では、アイデアソン/ハッカソン、コミュニティ/ソーシャルメディア、ワークショップ、デザインシンキング、リーンスタートアップ等の顧客や多様なステークホルダーとの共創のための仕組みや手法を実践して新しいサービスを立ち上げた具体的な事例とそこで得られた知見(プラクティス)を論文として募集したいと考えます。考えられる切り口としては、

- サービス創出に関するプラクティス
 - ・ 社内の多様な部門や外部の知を取り入れることによって新たなサービスが生まれた事例
 - ・ ユーザとともにサービスをデザインした事例
- オープンサービスイノベーションのプロセスや手法に関するプラクティス
 - ・ 多様な人材の共創により、創造的なアイデアを生み出すプロセスや事例
 - ・ リーンスタートアップやデザインシンキングなどを活用したプロセスやサービス創出事例
 - ・ コミュニティやソーシャルメディアなどを活用したサービスづくり

などがありますが、もちろんこれらに限ったものではありません。

多くの皆様からの投稿をお待ちしております。



※投稿要領: Web サイトをご覧ください→ <http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0702s.html> (応募資格は問いません)

※掲載号: 2016 年 4 月号 (Vol.7 No.2)

※特集エディタ: 柴崎辰彦 (富士通), 澤谷由里子 (早稲田大学), 福島俊一 (NEC)

※編集委員: 編集委員長: 吉野松樹 (日立), 副編集委員長: 茂木 強 (科学技術振興機構)

委員: 青山幹雄 (南山大学), 赤津雅晴 (日立製作所), 伊藤 智 (産業技術総合研究所), 位野木万里 (工学院大学),

浦本直彦 (日本 IBM), 海老原吉品 (オムロン), 黒橋禎夫 (京都大学), 齋藤正史 (金沢工業大学),

澤谷由里子 (早稲田大学), 住田一男 (東芝), 中野美由紀 (芝浦工業大学), 中村祐一 (日本 IBM), 平木 敬 (東京大学),

平山雅之 (日本大学), 福島俊一 (NEC), 富士 仁 (NTT), 藤瀬哲朗 (三菱総研), 藤原陽子 (日本 IBM),

峯松信明 (東京大学)

アドバイザー: 喜連川優 (国立情報学研究所・東京大学)

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、4月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「初等中等教育におけるICTの活用」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■タイムリーで大変興味深い特集でした。（石井一夫）

■時宜を得た特集だと思う。むしろ遅すぎたかもしれない。今後も同趣旨の特集を時々企画してほしい。特集の中で掲載されている具体的なデータ（表や図）が参考になった。教育というと、文科省や行政や学校教育者の立場であり、視点になる。学習という立場で特集を企画してみてもどうか。本特集でも学習について言及している記事もあるが、特集のタイトルが教育なのでどうしても教育の視点が優先する。（牛島和夫）

■初等中等教育においてICT化が進まない理由がよく分かった。また、進めなくてはならない理由もよく分かり、今月号の特集は大変良かったと思う。今後もこのような特集を続けてほしい。（匿名希望）

■授業だけでなく、夜遅くまでいじめなどの人間関係指導、さらには集金、学習用品発注などの事務にも忙殺されている小中高校の先生方の立場を理解し寄り添った形でICTの教育への導入を進める必要があると思います。一方的に世界から遅れているなど上から目線で進めてもICT導入は成功しない。これは教育だけでなくすべての分野（中小企業、医療、健康福祉など）でのICT導入も一緒だと思います。（匿名希望）

■初等中等教育におけるICT活用については、和光学園のように先進的な取り組みができる学校とできない学校との格差が広がっているように感じました。（匿名希望）

■初等中等での情報教育における課題がよく理解できました。次回は大人に対してのICT教育についても識者の見解を伺いたいです。（加藤雅彦）

■国内の教育情報化におけるさまざまな課題や取り組みについて紹介いただき、大変参考になりました。（江原康生）

■精神文化を重んじる日本では、無駄と思われるような手間をかけることを良しとしているところがあるが、教育においても同様で、その努力の幾分かは教育に反映されるが、結果として教育の疲弊を生んでしまったように思う。ICT教育も使いやすい機器で便利に使うところよりも操作が煩雑な機械を苦勞して使いこなすところに価値を見いだしてしまっているのではないかとと思うような現状ではある。ようやくICT化が進みそうな気配は出てきたが、実行される気配はあまりない。日本の情報産業界には頑張ってもらいたい。（匿名希望）

「1. 日本の学校教育情報化はなぜ停滞するのか」

■副題「学習者中心ICT活用への転換」こそがきわめて重要であることを強調している。（牛島和夫）

■特集に値する大事な話の導入部として、論点が矮小。（酒井保良）

■本分野の難しい状況に関して一定の見識を示したものとして、とても参考になりました。（匿名希望）

シニアコラム「IT好き放題：PowerPointを使うのをやめてみませんか？」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■現在あるプレゼンテーションツールや文書作成ツールを「使いにくい」ものにしてみれば、創意工夫が生まれるかもしないと思いました。（匿名希望）

特集「4月号新入生企画：私の大学時代」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■「私の大学時代」のような先輩からの意見を聞ける機会は今後もやっていただいた方が、参考になって良いと思いました。（匿名希望）

■学生に対してのロールモデル提示という面でも有意義な企画だと思った。（匿名希望）

■4月号らしい良い企画だと思いました。新入生でなくとも楽しく面白く、新年度へのやる気が高まるものでした。（匿名希望）

特別解説「Google Glassはどうなったのか？どうなるのか？」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■マスコミに盛んに取り上げられたものの、その後あまり聞かなくなった話題について、技術面とビジネス面などを解説してくれる記事は大変ありがたい。（稲本 康）

■興味深く拝見しました。昨今の技術的な流行も一歩引いて見ると、といった振り返りは必要なことだと思うので、チャレンジとして良かった点、失敗だった点、課題などを整理していくことが今後の発展につながるように思います。(匿名希望)

連載「ビブリオ・トーク：待ち行列理論の基礎と応用」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■読みやすく内容も優れていると思う。応用編のテーマが現代風で興味深い。2014年12月号ビブリオ・トークに加藤由花さんが「混雑と待ち」という題で、待ち行列理論テキストを紹介している。両テキストを比較してみると応用編の題材の選び方が時代を反映している面白い。(牛島和夫)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■日本社会のグローバル化に伴い、日本人の普通の学生を対象として、すべて英語で授業を行うカリキュラムを導入する大学が増えている。情報学の領域で、こうしたすべて英語で授業を行うカリキュラムを導入している事例を取り上げてはどうか。(水野光朗)

■今後取り上げてほしいテーマなど：計算機科学の最前線、今回の Google Glass の記事のような先端技術の

動向記事、海外で活躍する日本人研究者または若手研究者。(匿名希望)

■1年間、モニタとして本誌を隅々まで読む機会を得た。久しぶりに、この分野の最新の話題に触れ、各号とも、快い刺激をいただいた。会誌編集委員および事務局の方々にお礼を申し上げるとともに、なお一層のご活躍を祈念してやみません。ありがとうございました。(酒井保良)

■今後の希望テーマとしてはIoTがある。(匿名希望)

■スポーツにおける情報処理技術の紹介など。(匿名希望)

■1年間モニタを機会に毎号読んでみて、これまであまり読まずにいたのはもったいなかったと感じました。編集の工夫により、最近の会誌の魅力が増してきたのだと思いますが、読みたいような特集、テーマがタイムリーに組まれていて、必ずしも専門でないテーマでも、毎号、興味を持って読むことができました。(匿名希望)



【本欄担当 田坂和之、青木秀貴／会員サービス分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」< URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html> > にも掲載しています。Web 版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>>

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門
E-mail : editj@ipsj.or.jp Fax (03) 3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!



名誉会員の紹介

第 597 回理事会（2015 年 1 月）の議を経て、下記の方が 2015 年度定時総会（2015 年 6 月 3 日）において名誉会員に推挙されました。
（記載は会員番号順）



村上 篤道 君
むらかみ とくみち

- | | |
|---------------|---|
| 1971 年 3 月 | 東北大学工学部卒業 |
| 1971 年 4 月 | 三菱電機株式会社 入社、通信機製作所 |
| 1981 年 4 月 | 三菱電機株式会社 情報電子研究所 |
| 2000 年 4 月 | 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 副所長 |
| 2002 年～2010 年 | 大阪大学工学部先端科学技術共同研究センター
& 先端科学イノベーションセンター 客員教授 |
| 2003 年 4 月 | 三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 副所長 |
| | 東北大学大学院情報科学研究科博士学位取得 |
| 2004 年 4 月 | 三菱電機株式会社開発本部 役員技監 |
| 2014 年 4 月 | 早稲田大学理工学研究所 招聘研究員 |
| 1998 年 7 月 | 全国発明表彰・特許庁長官賞 |
| 1999 年 1 月 | IEEE Fellow |
| 2007 年 9 月 | 日本工学アカデミー会員 |
| 2013 年 5 月 | 電子情報通信学会 名誉員 |
| 2014 年 6 月 | 映像情報メディア学会 名誉会員 |
| 2014 年 5 月 | 日本工学会フェロー |

本会関係略歴

- (1) 2001 年 11 月入会
- (2) 理事（2002 年度～2003 年度）
- (3) FIT 推進委員・実行委員（2002 年度～2003 年度）
- (4) 情報規格調査会理事（2008 年度～2009 年度）
- (5) 副会長（2009 年度～2010 年度）
- (6) DICO2010 実行委員長（2010 年度）
- (7) 50 周年記念事業推進委員会副委員長（2010 年度）
- (8) 第 73 回全国大会組織委員長（2010 年度）
- (9) 技術応用運営委員長（2012 年度～2013 年度）
- (10) 2007 年度 フェロー
- (11) 2011 年度 功績賞



古川 一夫 君
ふるかわ かずお

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1971 年 3 月 | 東京大学大学院（電気）修士課程修了 |
| 1971 年 4 月 | 株式会社日立製作所 入社 |
| 2006 年 4 月 | 同社 代表執行役 執行役社長 |
| 2009 年 4 月 | 同社 取締役 代表執行役 執行役副会長 |
| 2009 年 6 月 | 同社 特別顧問 |
| 2011 年 10 月～現在 | 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 |

本会関係略歴

- (1) 2010 年 1 月入会
- (2) 会長（2011 年度～2012 年度）
- (3) 2013 年度 功績賞

2014年度功績賞

功績賞は、情報処理に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著な会員に贈呈されます。

本年度の受賞者は関連規程に基づき、第598回理事会（2015年3月）の議を経て、下記の4君に決定され2015年度定時総会（2015年6月3日）において、賞状および賞牌が授与されました。（記載は会員番号順）



寛 捷彦 君
かけひ かつひこ

本会正会員寛捷彦君（フェロー）は、永年にわたり情報処理技術の標準化と情報教育研究に携わり、当該分野を国際的に牽引してされました。

1973年には、NHK コンピュータ講座で講師を務めるなど早期から情報教育に携わってこられました。1974年には日本工業標準調査会専門委員、1980年には本会情報規格調査会のISO/TC 97（現 JTC 1）/SC 5 に委員として参加、1985年からはSC 22 専門委員会委員、1988年からは同委員長、また同年には日本工業標準調査会臨時委員として、情報処理用語、プログラム言語などの規格整備に貢献されました。特に我が国における情報処理関連のJIS 原案の制定、改正に多大な貢献をされています。

情報教育においても、1997年からACM International Collegiate Programming Contest の日本開催に中心メンバとして参画し、1998年には日本初のアジア地区予選大会をDirectorとして開催（～現在）するなど、学生のプログラミング能力向上に尽力されています。1999年には、

アクレディテーション委員会の委員として同制度の創設に尽力し、大阪工業大学における最初の試行を審査長として実現されました。また、情報専門学科カリキュラム標準J07の策定においては、J07代表責任者および連絡委員会委員長として尽力されました。

これらの卓越した業績は、工業標準化の功績による経済産業大臣表彰、本会情報規格調査会標準化功績賞、本会フェロー、藍綬褒章等の賞・章を受けており、国内外で高く評価されています。また、本会理事、本会情報処理教育委員会委員長、本会アクレディテーション委員会副委員長、日本工業標準調査会委員、日本規格委員会標準委員会専門委員、JIS 原案作成委員会委員、IFIP（情報処理国際連合）TC-2 日本代表、ISO/JTC 1/SC 22 委員長、JABEE 審査委員会委員長（情報分野）、ACM 日本支部長、情報オリンピック日本委員会理事長、実務能力認定機構理事長等の要職を歴任され、情報処理技術の標準化と情報教育研究における国際的なリーダーとして当該分野を牽引されました。

以上のように、同君が、国内外の情報処理分野の発展と教育・研究、ならびに本会の活動の発展に尽くされた功績はまことに顕著であります。



齊藤 忠夫 君
さいとう ただお

本会正会員齊藤忠夫君は、永年にわたりデジタル交換方式、プロトコル工学、コンピュータネットワークなどの通信ネットワークとコンピュータ技術を一体化するシステムの研究に携わり、当該分野を国際的に牽引してされました。

デジタル交換方式では、同君の研究を原型とした交換網は1975年以降世界のデジタル交換機の標準になりました。この研究に関して発明したキャパシタ形の記憶素子と同じ回路によるメモリは、CMOS メモリとして今日の電子技術の基本となっています。また、現在主流となっている交換型のローカルエリアネットワークの考え方をいち早く提案され、東京大学大型計算機センター長、同情報基盤センター長としてJPNIC の立ち上げを支援されるなど、我が国および世界のコンピュータネットワークの発展に貢献されました。

また同君は、文部省学術国際局科学官を7年間務められたほか、文部省、通商産業省、国土庁、郵政省、総務省、内閣府などの多くの審議会等に委員・専門委員として参画されました。特に郵政省・総務省においては、電気通信審議会会長代理、電気通信事業部会長、技術分科会長として、インターネット時代にふさわしい事業体系の構築に貢献されました。ADSL の環境整備、全国光ファイバ化計画、相互接続ルールの法制化などは同君の主導によるものです。現在も一般財団法人日本データ通信協会の理事長を務めておられ、競争状態にある通信事業者が同時に安定なネットワークの運用のために相互協力する環境の整備を進めておられます。

本会においては、1992年度および1993年度に理事、1993年から2003年に英文図書出版委員会の委員長を務められたほか、1993年から2014年までの長期間IFIP TC 6（通信システム）の日本代表、2005年から2014年までIFIP 全体会合の日本代表を務め、本会を代表されました。

これらの業績は、電子情報通信学会からの稲田賞、2回の論文賞、業績賞、フェロー称号、名誉員称号、功績賞、電気学会からの論文賞、2回の郵政大臣表彰ならびに「電波の日」総務大臣表彰、市村賞貢献賞、前島密賞、IEEE からのライフフェローの称号などにより国内外から高く評価されております。

以上のように、同君が国内外の情報通信分野の発展と教育・研究ならびに本会の発展に尽くされた功績はまことに顕著であります。



有川 節夫 君

ありかわ せつお

本会正会員有川節夫君は、永年にわたり情報科学の分野の教育・研究およびその政策に関して先導的な役割を果たしてこられました。

情報検索、類推、機械学習などの研究分野において数々のパイオニア的な研究業績をあげるとともに、多くの世界的研究者を育成されてきました。特に、情報検索とパターン照合の基礎研究から実用的なテキストデータベース管理システムの研究開発までを行い、その商用版は国の機関のシステムなどで広く実用に供されています。また、帰納推論等の機械学習の基礎理論を展開し、その成果をゲノム情報分野へ応用して、精度のきわめて高い仮説の発見に繋がりました。機械学習に基づく機械発見の可能性と手法において、観測データによる仮説空間そのものの論駁可能性が本質であることを指摘し、このような可能性を持つ広い空間が存在することを証明されました。こうした研究の集大成として「発見科学」と名づけた日本発・世界初の新しい学問領域を確立されました。学協会においても、本会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、統計科学研究会、日本バイオインフォマティクス学会などに深く関与するとともに、国際会議「計算論的学習理論(ALT)」および「発見科学(DS)」を立ち上げるなど、情報科学分野の発展に大きく貢献されました。これらの卓越した功績により、本会論文賞、丹羽賞学術賞、PAKDD2000 Paper with Merit Award、人工知能学会業績賞を受賞するなど、国内外から高く評価されています。

また、九州大学総長および文部科学省の科学技術・学術審議会委員として活躍し、学術分科会研究環境基盤部会等の部会長、学術情報作業部会主査、研究計画・評価分科会情報科学技術委員会主査などを歴任するなど、我が国の情報科学の発展を牽引してこられました。国立国会図書館の審議会委員長として、科学技術情報の整備にも貢献されました。

以上のように、同君が国内外の情報科学分野の発展に尽くした功績はまことに顕著であります。



村山 優子 君

むらやま ゆうこ

本会正会員村山優子君(フェロー)は、長年にわたり、インターネット、セキュリティ、トラストと安心および災害情報処理の研究に従事してこられました。

1984年 University College London 大学院修了、慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師、広島市立大学情報科学部講師を経て、岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授として今日に至るまで、我が国における当該分野のパイオニアの1人として、多くの先駆的研究成果をあげられました。さらに、当分野の研究活性化と学会運営には大きな役割を担われ、本会では理事(2006年度～2007年度)、監事(2011年度～2012年度)、セキュリティ委員会委員長(2004年度～現在)などを歴任されております。中でも、コンピュータセキュリティ(CSEC)研究会には設立から関わり、2004年度から2005年度には同研究会の主査を務められ、セキュリティ分野のコミュニティをリードし、人材育成に尽力されました。

ロンドン大学時代に培われた類い稀な語学力とコミュニケーション力で、国際的に広く厚い研究者ネットワークを築き、本分野の国際交流に大きく貢献をなさいました。2006年に初代の実行委員長として開催された情報セキュリティ国際会議(IWSEC)は、質の高い論文発表の場として知られ、2015年には第10回目を開催するほどに成長しています。2010年には本会の加盟する情報処理国際連合(IFIP)の主催するトラストに関する国際会議 IFIP Trust Management (IFIP TM) を実行委員長として開催し、その後の本会セキュリティ心理学とトラスト(SPT)研究会の立ち上げに繋がりました。そして、2013年にはIFIPのセキュリティとプライバシー保護委員会(TC 11)の委員長に、日本人女性として初めて選出されています。2014年からは、IFIPの副会長に就任され、我が国を代表した強いリーダーとして国際的に認められています。

以上のように、同君が、国内外の情報処理分野ならびに本会の活動の発展に尽くされた功績はまことに顕著であります。

各 賞 表 彰 等 (概 要)

詳細は Web サイト (http://www.ipsj.or.jp/award/sho_index.html) をご覧ください

2014 年度論文賞の表彰

本賞の選考は、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続に基づき、論文賞委員会（委員長 乾健太郎）が、対象論文 585 編* につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の 11 編が受賞候補論文として選定され、理事会承認（2015 年 3 月 21 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、2015 年度定時総会（2015 年 6 月）において著者に表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

* 選考を行ったのは「論文誌 ジャーナル」「Journal of Information Processing」「論文誌 プログラミング」「論文誌 数理モデル化と応用」「論文誌 データベース」「論文誌 コンピューティングシステム」「Transactions on Computer Vision and Applications」の 7 誌です。以下 4 誌については対象論文がそれぞれ 50 編に満たないため、論文賞選定は翌年以降に持ち越すこととしました。「論文誌 コンシューマ・デバイス&システム」「論文誌 デジタルコンテンツ」「Transactions on Bioinformatics」「Transactions on System LSI Design Methodology」

【情報処理学会論文賞】

- 「密な基地局群の無線相互干渉調停のための空間分割スケジューリング技術」

[情報処理学会論文誌 Vol.55, No.2, pp.826-837 (2014)]

山口 弘純 君 (正会員) 廣森 聡仁 君 (正会員)
東野 輝夫 君 (フェロー) 梅原 茂樹 君
浦山 博史 君 山田 雅也 君
前野 誉 君 金田 茂 君 (正会員)
高井 峰生 君 (正会員)

- 「dePENd: ボールペンの強磁性を利用した手描き補助システム」

[情報処理学会論文誌 Vol.55, No.4, pp.1237-1245 (2014)]

山岡 潤一 君 (学生会員) 笥 康明 君

- 「有価陶磁器製品に対する人工物メトリクス適用のための研究」

[情報処理学会論文誌 Vol.55, No.9, pp.1992-2007 (2014)]

藤川 真樹 君 (正会員) 小田 史彦 君
森安 研吾 君 測 真悟 君
竹田 美和 君

- 「Smith-Waterman アルゴリズムを利用したギャップを含むコードクローン検出」

[情報処理学会論文誌 Vol.55, No.2, pp.981-993 (2014)]

村上 寛明 君 堀田 圭佑 君 (学生会員)
肥後 芳樹 君 (正会員) 井垣 宏 君 (正会員)
楠本 真二 君 (正会員)

- 「係り受け木における機械翻訳のための品詞の教師なし学習」

[情報処理学会論文誌 Vol.55, No.7, pp.1665-1680 (2014)]

田村 晃裕 君 (正会員) 渡辺 太郎 君 (正会員)
隅田英一郎 君 (正会員) 高村 大也 君 (正会員)
奥村 学 君 (正会員)

【Journal of Information Processing Outstanding Paper Award】

- 「Disaster Information Collection with Opportunistic Communication and Message Aggregation」

[Journal of Information Processing Vol.22, No.2, pp.106-117 (2014)]

Jovilyn Therese B. Fajardo 君

Keiichi Yasumoto 君 (正会員)

Naoki Shibata 君 (正会員)

Weihua Sun 君 (正会員)

Minoru Ito 君 (正会員)

【情報処理学会論文誌 プログラミング 優秀論文賞】

- 「信号装置仕様の検証を通じた B メソッドにおける仕様記述法の検討」

[情報処理学会論文誌 プログラミング Vol.7, No.2 pp.20-35 (2014)]

寺田 夏樹 君

【情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 優秀論文賞】

- 「Twitter におけるユーザの興味と話題の時間発展を考慮したオンライン学習可能なトピックモデルの提案」

[情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 Vol.7, No.1 pp.53-60 (2014)]

佐々木謙太郎 君 吉川 大弘 君 (正会員)
古橋 武 君

【情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞】

- 「アウトオブオーダー型クエリ実行に基づくプラグイン可能なデータベースエンジン加速機構」

[情報処理学会論文誌 データベース Vol.7, No.2 pp.104-116 (2014)]

早水 悠登 君 (学生会員) 合田 和生 君 (正会員)
喜連川 優 君 (フェロー)

【情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム 優秀論文賞】

- 「Non-Volatile メインメモリを用いたチェックポイント・リスタートシステム」

[情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム Vol.6, No.4 pp.49-57 (2013)]

追川 修一 君 (正会員) 三木 聡 君

【IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award】

- 「Real-time Video Mosaicing using Non-rigid Registration」

[IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Vol.4, pp.170-178 (2012)]

Rafael Henrique Castanheira de Souza 君
Masatoshi Okutomi 君 (正会員)
Akihiko Torii 君 (正会員)

※ 上記 () の会員情報は論文掲載時のものです。

2014 年度喜安記念業績賞の表彰

本会では、名誉会員故喜安善市先生のご遺族から寄贈いただいた資金により、産業界における顕著な業績を顕彰するため、「喜安記念業績賞」を設けております。

本賞は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開

発・改良,あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な業績をあげ、産業分野への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は、「喜安記念業績賞候補者推薦用紙」により推薦された候補のうち、表彰規程および喜安記念業績賞候補者選定手続きに基づき、中田副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認（2015年3月21日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、下記の4件の業績の貢献者18名に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月3日に開催された2015年度定時総会において、表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

○「アイデンティティ管理技術の標準化と普及・実用化」

高橋 健司 君（正会員） 直井 邦彰 君（正会員）
久米田 博 君 李 焯 君
永野 一郎 君

○「オープンソースソフトウェアによるセキュアな計算機システム実現への貢献」

中村 雄一 君（正会員） 海外 浩平 君
原田 季栄 君 半田 哲夫 君
山内 利宏 君（正会員）

○「社会・産業の発展に寄与する新たな人口統計情報「モバイル空間統計」の実用化」

山口 高康 君（正会員） 小林 基成 君
鈴木 俊博 君

○「工場部品供給の完全自動化」

堂前 幸康 君（正会員） 奥田 晴久 君
永谷 達也 君 田中 健一 君
藤田 正弘 君

2014 年度長尾真記念特別賞の表彰

本会では、第20代会長長尾真先生（京都大学名誉教授）からご寄贈いただいた資金により、情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を顕彰するため、「長尾真記念特別賞」を設けております。

本賞は、情報処理の学術・技術にかかわる分野でその研究開発に特に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される39歳までの研究・開発者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は「長尾真記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者のうち、表彰規程および長尾真記念特別賞候補者選定手続きに基づき、徳田副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認（2015年3月21日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、下記の3君に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月3日に開催された2015年度定時総会において、表彰状および賞金が授与されました。

○「人に寄り添うモバイルアプリケーションに関する先駆的かつ実証的研究」

荒川 豊 君（正会員）

○「安全・安心・便利な社会を実現するバイオメトリクス・セキュリティ技術の研究開発」

高橋 健太 君（正会員）

○「思考型ゲームにおける高精度評価関数の設計及び人工知能の開発」

保木 邦仁 君（正会員）

2014 年度優秀教材賞の表彰

本会では、情報処理教育に関して優れた教材の開発者を顕彰するため、優秀教材賞を設けております。

本年度の受賞者は、表彰規程および優秀教材賞受賞候補者選定手続きに基づき、寛捷彦情報処理教育委員長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第598回理事会承認（2015年3月）を得て、決定いたしました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月3日に開催された2015年度定時総会において、表彰状および賞金が授与されました。

○「生命情報処理と ICT を橋渡しする教材：バイオインフォマティクス in silico」

松山 泰男 君（正会員）

2014 年度学会活動貢献賞の表彰

本会では、特定分野の運営、または会員サービスの向上への貢献を顕彰するため、学会活動貢献賞を設けております。

本年度の受賞者は、表彰規程および学会活動貢献賞候補者選定手続きに基づき、中田副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認（2015年1月29日付他、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、決定いたしました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月3日に開催された2015年度定時総会において、表彰状および賞牌が授与されました。

○「論文誌への査読貢献」

檀山 淳雄 君（正会員） 岡本 栄司 君（正会員）
竹森 敬祐 君（正会員）

○「学会誌における編集業務への貢献」

松崎 公紀 君（正会員）

○「デジタルプラクティスへの査読貢献」

峯 恒憲 君（正会員）

○「教員免許講習会業務への貢献」

久野 靖 君（正会員） 辰己 丈夫 君（正会員）
中山 泰一 君（正会員）

○「情報セキュリティ分野の研究者・実務者コミュニティの設立・発展への貢献」

寺田 真敏 君（正会員） 秋山 満昭 君（正会員）
畑田 充弘 君（正会員）

○「小中学生のための情報科学教室開催を通じた学会への貢献」

近畿大学理工学部情報学科

○「学術講演の動画中継・アーカイブ活動を通じた学会への貢献」

坂本 大介 君（正会員）

2014 年度感謝状の贈呈について

本会の運営、本会の特定分野の運営、または会員サービスの向上等にご貢献いただいた方に感謝状を贈呈しております。本年度は、規程に基づき、第 599 回理事会承認（2015 年 4 月他）を得て贈呈が決定し、6 月 3 日に開催された 2015 年度定時総会において感謝状を贈呈いたしました。

○「会誌編集長の貢献」

川合 慧 君（正会員）

○「デジタルプラクティス編集委員長の貢献」

平田 圭二 君（正会員）

○「学術コンテンツの配信による学術研究の推進と社会への貢献」

（株）ドワンゴ 川上 量生 君

（株）ニワンゴ 杉本 誠司 君

○「論文誌編集業務への貢献」※表彰は 5 月 9 日論文誌編集委員会

井口 寧 君（正会員） 鈴木幸太郎 君（正会員）

藤井 秀樹 君（正会員） 吉高 淳夫 君（正会員）

詳細は Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/fellow/fellow.html>) をご覧ください。

○「高性能並列計算機のためのシステムソフトウェア技術に関する貢献」

石川 裕 君（正会員）

○「並行プログラミング言語モデル GHC の提案に始まる言語モデルの先駆的研究および当該分野の研究会再編・研究論文誌創設への貢献」

上田 和紀 君（正会員）

○「ソフトウェア工学の研究と大学における実践的 PBL 教育への貢献」

鵜林 尚靖 君（正会員）

○「音環境理解研究に対する先駆的な貢献と学会業務への貢献」

奥乃 博 君（正会員）

○「自動並列化コンパイラとコンパイラ協調型マルチコアプロセッサ技術に対する貢献」

笠原 博徳 君（正会員）

○「ユビキタスコンピューティング分野における研究に対する貢献」

椎尾 一郎 君（正会員）

○「コンピュータグラフィックス分野の創成と基盤技術開発ならびに教育・普及に対する貢献」

西田 友晃 君（正会員）

○「情報通信産業の発展に対する貢献および学会運営への貢献」

古川 一夫 君（正会員）

○「ソフトウェア開発の定量的評価・管理技術に関する研究」

松本 健一 君（正会員）

2014 年度フェローのご紹介

2014 年度「情報処理学会フェロー」は、関連規程に基づき、フェロー選定委員会（委員長：村上篤道）において厳正な審査を行い、理事会承認（2015 年 2 月 26 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、下記の 9 君に決定されました。

なお、2014 年度フェローには、2015 年 6 月 3 日に開催された 2015 年度定時総会において、認証状が授与されました。

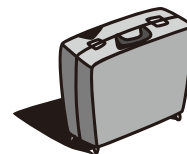


フォロー・
リツイート
お願いします

◎twitter で情報発信中！

情報処理学会ツイッター➡ @IPSJcom

ソフトウェア工学研究会➡ @IPSJ_SIGSE
ハイパフォーマンスコンピューティング研究会➡ @HpcCommittee
ヒューマンコンピュータインタラクション研究会➡ @ipsj_sighci
情報基礎とアクセス技術研究会➡ @sigifat
オーディオビジュアル複合情報処理研究会➡ @ipsj_avm
モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会➡ @ipsj_sigmbi
インターネットと運用技術研究会➡ @IPSJ_SIGIOT
自然言語処理研究会➡ #signl
コンピュータと教育研究会➡ @ipsjce
音楽情報科学研究会➡ @ipsj_sigmus
エンタテインメントコンピューティング研究会➡ @ipsj_sigec
バイオ情報学研究会➡ @sigbiojapan



いいね！・
シェア
お願いします

◎Facebook で情報発信中！

情報処理学会ページ www.facebook.com/IPSJcom

計算機アーキテクチャ研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigarc/
システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigos/
モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会 www.facebook.com/IPSJ.SIG.MBL
インターネットと運用技術研究会 www.facebook.com/ipsjjiot
コンシューマ・デバイス&システム研究会 www.facebook.com/sig.cds
電子化知的財産・社会基盤研究会 www.facebook.com/eipjp
会員の力を社会につなげる研究グループ www.facebook.com/ssr.ipsj



【特集：Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2014】

- Editor's Message to Special Issue of Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2014
Nariyoshi Yamai
- Public Data Dissemination via Broadcasting
Michael Wisely 他
- A Classification of Intrusion Detection Systems in the Cloud
Marwa Eslayed 他
- Community Structure and Interaction Locality in Social Networks
Sho Tsugawa 他
- ReVAMP: Requirements Validation Approach using Models and Prototyping
Shinobu Saito 他
- Modeling of Dynamic Latency Variations using Auto-Regressive Model and Markov Regime Switching for Mobile Network Access on Trains
Hiroshi Yamamoto 他
- Development and Evaluation of Congestion Detection System using Complex Event Processing for Mobile Networks
Hiroshi Yamamoto 他
- Design and Implementation of Optimal Route Selection Mechanism for Outbound Connections on IPv6 Multihoming Environment
Yong Jin 他
- Strict Application Execution Control with Hierarchical Group Management using Digital Certificates on Educational Windows PCs
Daisuke Okamoto 他
- Dripcast - architecture and implementation of server-less Java programming framework for billions of IoT devices
Ikuo Nakagawa 他
- Security Risk Quantification Mechanism for Infrastructure as a Service Cloud Computing Platforms
Doudou Fall 他

- Malicious Node Detection in Mobile Wireless Sensor Networks
Yuichi Sei 他

【一般論文】

- ダイバージェンスを最小にする議席配分方式について
一森哲男
- ファイル操作のシステムコール発行頻度に基づくバッファキャッシュ制御法における重要度更新契機の設定法*
山内利宏 他
- HTTP リクエストをキーとした Web3 階層ログの紐付けによる Web アプリケーション・システムのトレース手法の提案
伊藤秀朗 他
- メソッド呼び出しの差異に基づくコードクローンの分類手法
石尾 隆 他
- シンプレックス法を用いた非負のモデルパラメータを持つ並列処理時間モデルの予測力向上
折居茂夫 他
- 実生活ツイートに対する局面推定の精度向上に関する検討*
山本修平 他
- 複数の正答を持つ単位正方形の組み合わせパズルに関する研究
山本陽平 他
- 細部を復元するシームレス画像合成法*
吉澤 信 他
- 単語共起度の低い単語を提示する未習熟者向け発想支援システムの提案と適用
伊藤淳子 他

* : 推薦論文 Recommended Paper

† : テクニカルノート Technical Note

会員サービスのご案内

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします（本会 Web ページ：<https://www.ipsj.or.jp/member/other/yutai.html> 参照）。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門（E-mail: mem@ipsj.or.jp）までお寄せください。

- ◆ ホテル（5～53%割引）
JR ホテルグループ、グランビスタホテル&リゾート、ダイワロイヤルホテルズ、東急ホテルズ、阪急阪神第一ホテルグループ、ホテル法華クラブ、プリンスホテル、都ホテルズ&リゾート、FUJIYAMA 倶楽部、ウィクリーマンション東京
- ◆ レンタカー（最大 55%割引）
ニッポンレンタカー、日産レンタカー、タイムズカーレンタル
- ◆ パック旅行（3～5%割引）
日本旅行、近畿日本ツーリスト、トップツアー、京王観光
- ◆ UC 丸善アカデミックカード（10%割引）
- ◆ パーシティウェーブ コンピュータソフト（教育機関所属の方はアカデミック価格で）



論文誌トランザクション掲載論文リスト (June 2015)

【論文誌 プログラミング Vol.8 No.1】

- Ruby 向けトレース方式 Just-in-time コンパイラの設計と実装
井出真広 他
- Packrat Parsing with Elastic Sliding Window
Kimio Kuramitsu



【論文誌 コンピューティングシステム Vol.8 No.2】

- Detection of Visual Clickjacking Vulnerabilities in Incomplete Defenses
Yusuke Takamatsu 他
- データセンタ間通信による性能低下を抑えた広域分散型キーバリューストア構築手法
堀江 光 他
- ブロックストレージとの組み合わせによるメモリストレージ容量拡張手法
追川修一
- GPU 向け QCD ライブラリ QUDA への TCA アーキテクチャの適用
藤田典久 他
- 新しいタスクモデルによるメニーコア環境に適した MPI ノード内通信の実装
島田明男 他



【論文誌 教育とコンピュータ Vol.1 No.3】

- Defining Informatics across Bun-kei and Ri-kei
Masami Hagiya
- エジプトの大学院でのプログラミング教育
竹内郁雄
- 数式自動採点システムにおける数式入力インタフェースの提案と評価
白井詩沙香 他
- 数式自動採点システム STACK の行列問題における解答入力方法改善の取り組み
白井詩沙香 他
- 組込みシステムのための学習支援システムの開発と実践
千葉慎二 他

- 子供のスマートフォン依存を抑制する画面ロックアプリケーション
長谷川達人 他
- 初等中等段階を通じた情報教育の必要性和カリキュラム体系の提案
久野 靖 他



【論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.5 No.3】

- コンテキストに基づくタスク予測を利用したスマートフォン操作支援システム
飯塚真也 他
- CPU 使用率とメモリ帯域使用率を考慮した性能予測手法
若林 昇 他



【論文誌 データベース Vol.8 No.2】

- 車載組込みシステム向けデータストリーム処理のリアルタイムスケジューリング方式
山口晃広 他
- 少量学習データによる参考文献誌情報抽出精度の向上
川上尚慶 他
- VAST 木: 木構造索引の圧縮を用いた SIMD 命令による大規模データ探索の高速化
山室 健 他
- 共同執筆コンテンツにおける単語の起源追跡
中村 晃 他
- 幾何学的接尾辞木の高速処理方式
高橋誉文 他
- Web アプリケーション向け結合ビューライブラリにおける更新内容の即時反映機能とその実装
畑谷卓哉 他



詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

ITに関する最新情報や研究発表の場の提供を通じて、あなたのお役に立ちます。

会員募集中!!



申込/照会先 一般社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail: mem@ipsj.or.jp

IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	論文誌「クラウド時代のインターネットと運用技術」特集 への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-P.html	6月15日(月)		
	論文誌「インタラクションの理解および基盤・応用技術」特集 への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-J.html	6月19日(金)		
	論文誌「学生・若手研究者論文」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-M.html	6月30日(火)		
	論文誌「音楽情報処理技術の進歩とその拡がり」特集 への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-K.html	7月31日(金)		
	デジタルプラクティス「オープンサービスイノベーション」特集 論文募集 http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0702s.html	8月5日(水)		
	論文誌「Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2015」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-L.html	10月30日(金)		
	論文誌「ユビキタスコンピューティングシステム (V)」特集 への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-N.html	12月11日(金)		
6月17日(水)	東北支部報告会 http://www.ipsj.or.jp/annai/shibu/shibu_tayori2015.html			東北大学
6月18日(木)	連続セミナー 2015 第1回「クラウド基盤技術の最新動向」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/		定員になり次第	化学会館 大阪大学中之島センター
6月23日(火)～ 6月25日(木)	第103回数理モデル化と問題解決・第42回バイオ情報学 合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mps103bio42.html	5月8日(金)	当日のみ	沖縄科学技術大学院 大学
6月26日(金)～	第149回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hpc149.html	4月24日(金)	当日のみ	工学院大学
6月30日(火)～ 7月1日(水) 7月2日(木)	第159回グラフィクスとCAD研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cg159.html 連続セミナー 2015 第2回「ものづくりとICTの新たな統合 ～ Industrie4.0を切る～」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/	5月13日(水)	当日のみ	広島大学 東広島キャンパス
7月2日(木)～ 7月3日(金)	第70回コンピュータセキュリティ・第14回セキュリティ心理学と トラスト合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/csec70spt14.html	5月14日(木)	当日のみ	名古屋市 中小企業振興会館 吹上ホール
7月3日(金)～ 7月4日(土) 7月4日(土)	第30回インターネットと運用技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/iot30.html 第34回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/gi34.html	5月22日(金)	当日のみ	岐阜市文化産業交流 センター
7月8日(水)～ 7月10日(金)	マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2015) シンポジウム http://dicomo.org/	3月23日(月)		ホテル安比グラント
7月13日(月)～ 7月14日(火) 7月15日(水)～ 7月16日(木) 7月16日(木)～ 7月17日(金) 7月22日(水)	第98回ドキュメントコミュニケーション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dc98.html 第180回知能システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics180.html 第107回音声言語情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp107.html 東海支部主催講演会 「医療における自然言語処理応用～ビッグデータからディープデータまで～」 http://www.ipsj-tokai.jp/	5月18日(月)	当日のみ	はこだて未来大学
7月22日(水)～ 7月24日(金) 7月27日(月)	第189回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/se189.html 第104回数理モデル化と問題解決研究発表会 http://daemon.inf.uec.ac.jp/MPSPortal/events/mps104cfp	5月19日(火)	当日のみ	札幌市教育文化会館
7月27日(月)～ 7月28日(火)	第46回ユビキタスコンピューティングシステム・ 第2回高齢社会デザイン合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ubi47asd2.html	6月5日(金)	当日のみ	立命館大学大阪 いばらきキャンパス
7月27日(月)～ 7月30日(木)	第18回画像の認識・理解シンポジウム http://cvim.ipsj.or.jp/MIRU2015/		当日可	ホテル阪急 エキスポパーク
7月31日(金)～ 8月1日(土) 8月3日(月)～ 8月4日(火) 8月3日(月)～ 8月4日(火) 8月3日(月)～ 8月5日(水) 8月4日(火)～ 8月6日(木)	第164回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci164.html 第12回ネットワーク生態学シンポジウム http://www.neteco.jp/symposium/201508/ 第89回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/avm89.html 2015年度教員免許更新講習 http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2015.html 2015年並列／分散／協調処理に関する『別府』サマー・ ワークショップ (SWoPP2015) https://sites.google.com/site/swoppweb/swopp2015	6月1日(月)		福江文化会館・会議室 (長崎県五島市)
8月3日(月)～ 8月4日(火) 8月3日(月)～ 8月4日(火) 8月3日(月)～ 8月5日(水) 8月4日(火)～ 8月6日(木)	第12回ネットワーク生態学シンポジウム http://www.neteco.jp/symposium/201508/ 第89回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/avm89.html 2015年度教員免許更新講習 http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2015.html 2015年並列／分散／協調処理に関する『別府』サマー・ ワークショップ (SWoPP2015) https://sites.google.com/site/swoppweb/swopp2015	5月25日(月)	当日のみ	静岡県伊東市 山喜旅館
8月17日(月)～ 8月19日(水)	情報教育シンポジウム2015 (SSS2015) http://ce.eplang.jp/index.php?SSS2015	5月15日(金)	当日可	鳥取県 境港マリーナホテル

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
8月26日(水)～ 8月28日(金)	DAシンポジウム2015 システムとLSIの設計技術— http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/s-da2015.html	5月15日(金)		山代温泉 ゆのくに天祥
8月27日(木)～ 8月28日(金)	平成27年度電気関係学会東北支部連合大会 http://www.ecei.tohoku.ac.jp/tsjc/	6月15日(月)		岩手県立大学
9月7日(月)～ 9月9日(水)	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2015 http://ses.sigse.jp/2015/index.html	5月15日(金)		慶應義塾大学 日吉キャンパス
9月15日(火)～ 9月17日(木)	FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/		7月10日(金)	愛媛大学 城北キャンパス
9月26日(土)～ 9月27日(日)	平成27年度(第68回)電気・情報関係学会九州支部連合大会 http://www.jceee-kyushu.jp/	7月13日(月)	8月7日(金)	福岡大学
9月28日(月)～ 9月29日(火)	2015年度関西支部大会 http://kansai.ipsj.or.jp/sibutai/2015/	6月19日(金)		大阪大学中之島センター
9月28日(月)～ 9月29日(火)	平成27年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 http://www.ieice.org/tokai/rengo2015/	7月15日(水)		名古屋工業大学
8月29日(土)	第160回グラフィックとCAD研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cg160.html	6月15日(月)	当日のみ	東京工科大学 蒲田キャンパス
9月30日(水)	連続セミナー2015 第3回「次世代ロボット技術の最新動向」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/		定員になり次第	化学会館 大阪大学中之島センター
10月13日(火)	連続セミナー2015 第4回「Deep Learningと人工知能」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/		定員になり次第	化学会館 大阪大学中之島センター
10月21日(水)～ 10月23日(金)	組込みシステムシンポジウム2015 http://www.sigemb.jp/ESS/2015/	6月15日(月)		早稲田大学
11月24日(火)	連続セミナー2015 第5回「IoTが未来を創る：データ駆動型経済の夜明け」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/		定員になり次第	化学会館 大阪大学中之島センター
12月18日(金)	連続セミナー2015 第6回「人間中心インタフェース」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2015/		定員になり次第	化学会館 大阪大学中之島センター
12月26日(土)～ 12月27日(日)	2015年度教員免許更新講習(冬) http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2015.html		2015/7/16以降に 詳細案内予定	京都大学
2016年				
3月10日(木)～ 3月12日(土)	情報処理学会 第78回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/78/			慶應義塾大学 矢上キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 5月18日 論文誌「クラウド時代のインターネットと運用技術」特集 論文募集
- 5月15日 人材募集情報 (Vol.56 No.6)
- 5月15日 会誌「情報処理」Web カタログ (Vol.56 No.6)
- 5月11日 デジタルプラクティス「オープンサービスイノベーション」特集論文募集
- 5月7日 2015年度定時総会の開催について
- 4月27日 初等中等教育における一貫した情報教育(情報学教育)の充実について(提案)
- 4月27日 [プレスリリース] 情報処理学会 認定情報技術者 52 名が誕生

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書に記載する「宛名」、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ、E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 税抜 20,000 円（税込 21,600 円）

賛助会員（企業） 税抜 30,000 円（税込 32,400 円）

賛助会員以外の企業 税抜 50,000 円（税込 54,000 円）

*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 税抜 4,000 円（税込 4,320 円）で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部（有料会告係） E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■岩手県立大学ソフトウェア情報学部

募集人員 准教授または講師、助教 1名
所 属 ソフトウェア情報学部講座
専門分野 基盤ソフトウェア学（組込みソフトウェア、OS、センサネットワークなどの関連分野）
担当科目 学部・大学院の基盤システム関連科目（オペレーティングシステム論、組込みOS論、コンピュータアーキテクチャなど）ならびに講座内の演習指導、および修論・博論指導
応募資格 応募資格の詳細は、Web ページ（<http://www.iwate-pu.ac.jp/information/recruit.html>）をご覧ください
着任時期 2015年10月1日（または9月以降可能な限り早い時期）
提出書類 ①履歴書、②研究業績リスト、③学位論文（コピー可）、④主要著書・学術論文別刷（コピー可）と学位取得証明書、⑤教育または職歴に関する業績および教育に関する見解（1000字程度）、⑥参考となる意見を伺える方2名からの推薦状と連絡先
応募締切 2015年6月30日（必着）
送付先 〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 岩手県立大学ソフトウェア情報学部長 渡邊慶和 「教員応募書類在中」と朱書
照会先 ソフトウェア情報学部事務室 主事 鎌田恵理子 E-mail: soft-jimu@ml.iwate-pu.ac.jp Tel(019)694-2500
その他 詳細はWeb ページ（<http://www.iwate-pu.ac.jp/information/recruit.html>）をご確認ください

■情報・システム研究機構国立情報学研究所

募集人員 准教授、助教 各若干名（教授採用を考慮する場合もある。助教は任期付き）
研究開発分野 ①情報学プリンシプル研究分野、②アーキテクチャ科学研究分野、③コンテンツ科学研究分野、④情報社会関連研究分野
応募資格 原則として博士の学位取得または取得見込みの方（人文・社会科学系の研究者にあつては、これに準ずる方を含む）
着任時期 原則として2016年4月1日
提出書類 (1)履歴書（別紙様式1）※希望研究部門（研究開発分野）、希望職種（准教授または助教）を記入のこと、(2)研究業績（別紙様式2）※論文、著書を公表年順に記載し、主要業績3編について、別刷各3部（コピー可）を添付すること、(3)学会における活動状況（別紙様式3）、(4)職域における活動状況（別紙様式4）、(5)社会における活動状況（別紙様式5）、(6)推薦書/照会先:推薦書がある場合、同封すること。推薦書がない場合、応募者の業績について照会できる方の氏名、連絡先を記すこと、(7)就任後の抱負:任意の様式による（2000字程度）※別紙様式1～5については、Web ページからダウンロードしてください
応募締切 2015年6月30日（必着）
送付先 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 情報・システム研究機構国立情報学研究所長「応募書類在中（研究教育職員）」と朱書き書留 *応募書類は返却しません
照会先 アーキテクチャ科学研究系 教授 佐藤一郎 E-mail: koubo@nii.ac.jp
その他 書類審査および面接による。面接は書類審査合格者を対象とし、これにかかる旅費、宿泊費等は自己負担となります。より詳細な応募要領はWeb ページ（<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>）を参照のこと

■情報・システム研究機構国立情報学研究所

募集人員 特任准教授、特任助教 各若干名(任期付き、特任教授採用を考慮する場合もある)

研究開発分野 ①コンピュータネットワーク分野、②セキュリティ分野、③クラウド分野、④コンテンツ分野、⑤オンライン教育分野

応募資格 博士を有する方、または相当の実務能力を有すると判断される方

着任時期 原則として2015年10月1日以降のなるべく早い時期

提出書類 (1)履歴書(別紙様式1) ※希望研究開発分野、職種(特任准教授、特任助教)を記入のこと、(2)研究開発実績:任意の様式による(2000字以上、長くないように)、(3)推薦書/照会先:推薦書がある場合、同封すること。推薦書がない場合、応募者の業績について照会できる方の氏名、連絡先を記すこと、(4)就任後の抱負(2000字程度)、(5)その他、参考になる書類(提出は任意)、・研究業績リスト(別紙様式2)に従い、論文や著書を公表年順に記載する。主要業績については、最大3編まで別刷(コピー可)を添付することもあります)、・学会における活動状況(別紙様式3)、・職域における活動状況(別紙様式4)、・社会における活動状況(別紙様式5) ※別紙様式1~5については、Webページからダウンロードしてください

応募締切 2015年6月30日(必着)

送付先 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 情報・システム研究機構国立情報学研究所長
「応募書類在中(事業系特任教員)」と朱書き書留 ※応募書類は返却しません

照会先 アーキテクチャ科学研究系 教授 佐藤一郎 E-mail: koubo@nii.ac.jp

その他 国立情報学研究所では、学術情報ネットワーク SINET の運営や CiNii などの学術情報に関するサービスを行っています。また、今後はサイバーセキュリティやクラウドに関する事業を展開しようとしております。このような先端的ITを大学等に対するサービスとして実現する事業の運用と開発に携わる人材の公募を上記のとおり行います
書類審査および面接による。面接は書類審査合格者を対象とし、これにかかる旅費、宿泊費等は自己負担となります
より詳細な応募要領はWebページ (<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>) を参照のこと

■情報・システム研究機構国立情報学研究所

募集人員 特任准教授または特任助教 1名(任期付き)

研究開発分野 ①情報学プリンシプル研究分野、②アーキテクチャ科学研究分野、③コンテンツ科学研究分野、④情報社会相関研究分野

応募資格 原則として博士の学位取得または取得見込みの方(人文・社会科学系の研究者にあつては、これに準ずる方を含む)

着任時期 原則として2015年10月1日以降のなるべく早い時期

提出書類 (1)履歴書(別紙様式1) ※希望研究部門(研究開発分野)、希望職種(特任准教授または特任助教)を記入のこと、(2)研究業績・開発(別紙様式2) ※論文、著書を公表年順に記載し、主要業績3編について、別刷各3部(コピー可)を添付すること、(3)学会における活動状況(別紙様式3)、(4)職域における活動状況(別紙様式4)、(5)社会における活動状況(別紙様式5)、(6)推薦書/照会先:推薦書がある場合、同封すること。推薦書がない場合、応募者の業績について照会できる方の氏名、連絡先を記すこと、(7)就任後の抱負:任意の様式による(2000字程度) ※別紙様式1~5については、Webページからダウンロードしてください

応募締切 2015年6月30日(必着)

送付先 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 情報・システム研究機構国立情報学研究所長
「応募書類在中(特任教員(女性))」と朱書き書留 ※応募書類は返却しません

照会先 アーキテクチャ科学研究系 教授 佐藤一郎 E-mail: koubo@nii.ac.jp

その他 情報・システム研究機構では、「男女共同参画社会基本法」の精神に則り、機構が進める男女共同参画を加速するために次世代女性研究者養成事業を行います。この事業により、国立情報学研究所において男女雇用機会均等法第8条(女性労働者に係る措置に関する特例)の規定に基づき、上記のとおり女性研究者の公募を行います
書類審査および面接による。面接は書類審査合格者を対象とし、これにかかる旅費、宿泊費等は自己負担となります
より詳細な応募要領はWebページ (<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>) を参照のこと

■大分大学工学部知能情報システム工学科

募集人員 教授または准教授 1名

専門分野 ビッグデータを扱う基盤となる大規模データベース、クラウドコンピューティングなど

担当科目 データベースシステム、ソフトウェア工学、人工知能などの関連科目、大学院工学研究科の専門科目

応募資格 (1)専門分野で博士またはPh.D.の学位を有する方、(2)専門分野に業績が十分あり、大学院博士後期課程の教育を担当できる方、(3)情報工学にかかわる研究に熱意があり、海外の情勢を反映した新しい研究分野にも挑戦できる意欲を持続できる方、(4)学生に対する教育・指導にも強い使命感と責任感をもって取り組まれる方、(5)大学、学部、学科における管理・運営の業務にも積極的に貢献される方、(6)医工連携や地域連携活動、外部資金獲得に積極的に取り組まれる方

着任時期 2015年12月1日以降のできるだけ早い時期

提出書類 (1)個人調書(様式は工学部Webページの教員公募からダウンロードし、記載例を参考に作成してください)、(2)教育および学生指導に対する考えや抱負(A4用紙1~2枚程度)、(3)今後の研究計画(A4用紙1~2枚程度)、(4)主要論文別刷(5編。コピー可)、(5)応募者について問合せができる方2名の氏名と連絡先および応募者との関係 ※選考状況により別途書類の提出をお願いすることがあります

応募締切 2015年7月17日(必着)

送付先 〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700 大分大学工学部総務係 係長 酒井智子 「知能システム講座教員応募書類」と朱書き簡易書留

照会先 知能情報システム工学科 学科長 中島 誠 E-mail: nakasima@oita-u.ac.jp Tel(097)554-7884

その他 詳細については、必ず工学部Webページ (<http://www2.cc.oita-u.ac.jp/eng/koubo.html>) をご参照ください

■芝浦工業大学工学部通信情報学群情報工学科

募集人員 助教, 准教授, または教授 1名 (助教は任期3年, その後審査により1年ずつ通算5年まで延長可. 審査により准教授への昇格あり)

専門分野 画像処理分野

担当科目 「デジタルメディア処理」, 「コンピュータグラフィクス」, 「パターン認識」, 「情報工学英語」, プログラミング演習科目など

応募資格 博士の学位を有し, 大学院を担当でき, 情報工学の基礎系に造詣が深く, 応用分野も担当できること, 国際化教育, 活動に積極的に参画できること

着任時期 2016年4月1日

提出書類 (1)履歴書 (学歴, 職歴, 学会および社会における活動等), (2)研究業績リスト (査読付き論文, 査読付き国際会議, その他の論文 (口頭発表を含む), 著書を区別. すべての著者名を記載. 年号は西暦. 分類ごとに最新のもののから番号順), (3) 主要論文別刷 (最近のものを5編以内, コピー可), (4)教育に対する抱負 (A4用紙2枚以内), (5)研究に対する抱負 (A4用紙2枚以内), (6)推薦書

応募締切 2015年8月21日 (必着)

送付先 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学工学部情報工学科 「教員公募書類在中」と朱書き書留

照会先 情報工学科 主任 杉本 徹 E-mail: sugimoto@shibaura-it.ac.jp

その他 詳細は本学Webページ (<http://www.shibaura-it.ac.jp/>)内の教員公募をご確認ください

■法政大学情報科学部コンピュータ科学科

募集人員 教授または准教授 1名

専門分野 情報科学・情報工学, 特にソフトウェア理論, データベース, 組み込みソフトウェアのいずれかを専門領域とすることが望ましい

担当科目 情報科学の基礎科目, データベース, ソフトウェア工学, 実験科目などから数科目

応募資格 博士の学位を有し, 専門分野での研究業績があり, 学部・大学院の教育と研究を担当できる方

着任時期 2016年4月1日

提出書類 (1)履歴書 (学歴, 職歴, 学会および社会における活動等), (2)研究業績リスト (査読付き学術論文, 査読付き国際会議論文, 著書・総説・解説, その他論文, 学位論文, 特許, 受賞歴, 研究助成などの取得実績), (3) 主要論文別刷 (3編, コピー可), (4) これまでの研究概要 (A4用紙1000字程度), (5) 着任後の教育・研究に関する抱負 (A4用紙1000字程度), (6) 応募者について照会が可能なる方2名の名前とその連絡先

応募締切 2015年9月18日 (必着)

送付先/照会先 〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2 法政大学情報科学部 学部長 雪田修一
E-mail: yukita@hosei.ac.jp Tel(042)387-4558
「教員応募書類」と朱書き書留 *応募書類は返却いたしません

その他 詳細はWebページ (<http://www.hosei.ac.jp/saiyo/index.html>)をご覧ください
履歴書, 研究業績リストは上記ページに掲載されている書類を用いてください

FIT2015 第 14 回情報科学技術フォーラム 聴講参加・懇親会参加並びに講演論文集 事前予約申込の御案内

FIT2015Web サイト : <http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/>

情報処理学会と電子情報通信学会（情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ）とは2002年から合同で毎年秋季にFIT (Forum on Information Technology) を開催しており、2015年9月には第14回目を愛媛大学で開催致します。

つきましては、聴講参加、懇親会参加並びに講演論文集、DVD-ROMの事前予約申込の御案内を致します。皆様、奮ってお申込み下さい。

聴講参加費は、当日参加よりも事前予約の方がお得になっております。また、講演論文集、DVD-ROMは、FIT開催中にも会場販売を行います。また、残部のある限りということになりますので、確実に御入手頂くには期限内のお申込みをお勧め致します。

会 期：2015年9月15日(火)～17日(木)

会 場：愛媛大学 城北キャンパス（愛媛県松山市文京町3番）

交 通：松山空港から伊予鉄バスでJR松山駅、松山市駅で下車。

JR松山駅から伊予鉄道市内電車「赤十字病院前」または

伊予鉄バス東西線「愛媛大学前」下車。

松山市駅から伊予鉄道市内電車「赤十字病院前」下車。

■開催イベント企画【予定】

今回のFITでは以下の講演会、パネル討論等のイベント開催を予定しております。（詳細は逐次FIT2015Webサイトに掲載致します）

【招待講演企画・表彰式】

◎船井業績賞受賞記念講演

16日14:00-15:15 第1イベント会場（講義棟1F グリーンホール）

『Efficiency and Programmability: The Challenges of Future Computing』

William James Dally

Professor (Research) of EE and CS, Stanford University

Chief Scientist and Senior Vice President of Research,

NVIDIA Corporation

◎FIT学術賞表彰式

16日13:00-13:50 第1イベント会場（講義棟1F グリーンホール）

【イベント企画】

第1イベント会場（講義棟1F グリーンホール）

15日 13:00-15:00 ITによって教育はどのように変わるか？

15:30-17:30 学術研究におけるビッグデータの安全な活用はどこまで可能か？：日本の研究力の飛躍的向上に向けて

16日 13:00-13:50 FIT学術賞表彰式

14:00-15:15 船井業績賞受賞記念講演

15:30-17:30 災害コミュニケーションとその課題

17日 09:30-12:00 医療用ソフトウェアの最新動向：高信頼設計、法規制、および、ビジネス展開

13:00-16:00 第6回 相磯秀夫杯 デザインコンテスト

The 1st RECONF/CPSY/ARC/GI Trax デザインコンペティション本選

第2イベント会場（講義棟1F 講11）

15日 09:30-12:00 シンギュラリティ問題が社会に与える影響

13:00-15:00 地域を活かす、地域で活きるICT

15:30-17:30 地方における実践的人材育成

16日 09:30-12:00 新世代XXX乗っ取り作戦

15:30-17:30 今日からあなたもビッグデータ活用者へビッグオープンデータ、クラウドサービスの波に乗れ～

17日 09:30-12:00 第6回 相磯秀夫杯 デザインコンテスト

The 1st RECONF/CPSY/ARC/GI Trax デザインコンペティション予選

第3イベント会場（講義棟2F 講21）

15日 09:30-12:00 スマートデバイスやクラウドを用いた教育・学習インフラとその活用技術

13:00-15:00 サイバーワールドの10年-これまでと今後の展望-

16日 09:00-12:00 人工知能のため標準問題としてのゲーム研究

15:30-17:30 オノマトペ利活用技術の最前線

17日 09:30-12:00 ビッグデータ解析のための機械学習技術

■聴講参加費（税込）

参加区分	事前予約(7/10まで)	当日
会 員	10,000円	12,000円
非会員	20,000円	24,000円
学 生	無料	無料

※会員、非会員の聴講参加費にはプログラム・参加章・DVD-ROM含。

※学生聴講参加にはプログラム・参加章。

※会員、非会員、学生の参加区分の区別は以下の通りです。

会 員：情報処理学会、電子情報通信学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び情報処理学会と協定を締結した海外の学会（ACM、IEEE、IEEE/CS、KIIE、CSI）または電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会（IEIE、APSIPA、ECIT、IEEE/ComSoc、KICS、VDE/ITG、KIEES、CIC、IEEE/PHO、IEEE/MTT-S、IEEE/CS、KIIE）の個人会員に限りです。

非会員：上記の学会会員以外で学生以外の方。

学 生：会員/非会員を問わず無料（DVD-ROMは付きません）。

■懇親会【予定】※参加を希望される方は必ず事前予約をお願いします

開催日時：9月16日（水）18：30～20：30

会 場：リジェール松山（松山市駅より徒歩5分）

参加費（税込）：社会人 5,000円、学生 2,000円、

一般講演座長または査読者 3,000円

■冊子講演論文集・DVD-ROM販売価格（税込）

申込種別	個人購入価格	法人購入価格
講演論文集セット	60,000円	60,000円
講演論文集分冊	13,000円／冊	16,000円／冊
講演論文集DVD-ROM	9,000円	56,000円

※学生の方は、会場にてDVD-ROM学割会場販売価格4,000円

※講演論文集セットは冊子講演論文集全分冊（カバー付き）、DVD-ROM

※講演論文集の掲載分野（分冊構成）【予定】

（FIT 査読付き論文の採択論文は各投稿分野の論文集分冊へそれぞれ収録）

第1分冊：モデル・アルゴリズム・プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア・アーキテクチャ

第2分冊：データベース、自然言語・音声・音楽、人工知能・ゲーム、生体情報科学

第3分冊：画像認識・メディア理解、グラフィクス・画像、ヒューマンコミュニケーション&インタラクション、教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

第4分冊：ネットワーク・セキュリティ、ユビキタス・モバイルコンピューティング、教育・人文科学、情報システム

DVD-ROM：上記全論文とプログラムを収録（著者、所属、キーワード 索引付）

※講演論文集セットまたは分冊の受取方法

事前予約申込フォームの「会場受取り」または「FIT終了後郵送（10月上旬）」のいずれかを選択して下さい。「会場受取り」にされた方には、申込受付完了メールに引換券(PDF)が添付されておりますので、御来場の際は、その引換券をプリントアウトして御持参頂き、総受付にお渡し下さい。

■聴講参加・懇親会参加・講演論文集の事前予約申込・送金方法

申込締切：2015年7月10日（金）必着

申込方法：FIT2015Webサイトからお申込み下さい。

送金方法：申込締切後、見積・納品・請求書、郵便振替用紙、送金連絡票をお送りしますので指定の口座へお振込をお願い致します。

送金期日：2015年10月30日（金）

※FIT会場での現金支払いは、一切お受け致しませんので予め御了承下さい。

※聴講参加または懇親会参加申込を頂いた方には、申込受付完了メールに引換券(PDF)が添付されておりますので、御来場の際は、その引換券をプリントアウトして御持参頂き、総受付にお渡し下さい。

※DVD-ROM（講演論文集セット付属のものは除く）は、事前発送（8月下旬予定）致します。

■次年度のFIT2016開催

2016年9月7日（水）～9日（金）富山大学（予定）

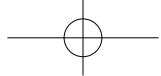
■問い合わせ（FIT2015幹事学会）

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人情報処理学会 事業部門

Tel. 03-3518-8373 Fax. 03-3518-8375

e-mail: jigyo@ipsj.or.jp



CONTENTS

Preface

Learn to Code, Code to Learn

Mitchel RESNICK (MIT Media Lab.)

622 Message from the New President : Information Processing Technologies to Drive a Bright Future

Tatsuo TOMITA (Fujitsu Labs. Ltd.)

Special Article

624 What is a Leap Second

Tsukasa IWAMA (National Institute of Information and Communications Technology)

Special Features

Revolutions in Image Recognition

626 0. Foreword

Shin'ichi SATOH (National Institute of Informatics) and Hidehisa NAGANO (NTT Corp.)

628 1. Historical Review and Prospect of Image and Video Recognition and Understanding

Shin'ichi SATOH (National Institute of Informatics)

634 2. Visual Recognition by Deep Learning : Ability and Limitation of Convolutional Neural Networks

Takayuki OKATANI (Tohoku Univ. / JST CREST)

640 3. Image Classification and Image Reconstruction

Tatsuya HARADA (The Univ. of Tokyo)

646 4. Recognizing and Understanding Images on Social Networks

Akisato KIMURA (NTT Corp.)

Special Features

Space Development and Information Technology

652 0. Foreword

Misayo KITAMURA (Mitsubishi Electric Corp.)

654 1. Utilization of Information Processing Technologies for Space Systems

Hiroshi KOYAMA (Mitsubishi Electric Corp.)

660 2. Asteroid Explorer "Hayabusa2" - Autonomous Technology for Deep Space -

Takeshi OSHIMA (NEC Corp.) and Yuichi TSUDA (Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA))

665 3. Ultra Small Satellite Nano-JASMINE

Nobutada SAKO (The Univ. of Tokyo) and Yoshiyuki YAMADA (Kyoto Univ.)

669 4. Space Station Supply Vehicle "Kounotori" - Cargo Layout Problem for Transfer Vehicle -

Keiki TAKADAMA (The Univ. of Electro-Communications)

673 5. Quasi-Zenith Satellite System - Centimeter-class Positioning Augmentation Technologies -

Yuki SATO, Takeya SHIMA and Hiroshi KOYAMA (Mitsubishi Electric Corp.)

Senior Column : Messages on Favorite IT

677 Recent Research Affairs in Japanese Universities : Encouragement of "Bonasai" Research

Toshitsugu YUBA (The Univ. of Electro-Communications)

Series : Pilgrimage to Vintage Computers / Trail Blazers' Recollections of 0's and 1's

680 Oral History : Interview with Hitoshi Watanabe

Naoya UKAI (Fujitsu Ltd.), Chigusa KITA (Kansai Univ.), Hiroshi HATTA (OKI Consulting Solutions Co., Ltd.) and Akihiko YAMADA (Computer Systems and Media Lab.)

"Peta-gogy" for Future

687 A Place of Learning : School Children and Programming

Atsushi TAJIMA (Nikkei Business Publications, Inc.)

688 Crossover and Cooperation between Educations of Information Literacy and Japanese Literacy

Keiichi ABE (Formerly, Shizuoka Univ.)

692 Computer Education and Statistics Education : One-Liner Programming in R

Haruhiko OKUMURA (Mie Univ.)

678 Biblio Talk

696 Conference Report

698 Conference Report

700 Conference Report

701 The Women's Club of the Editorial Committee of the IPSJ Magazine

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 120 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙または Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金	
論文募集／ 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショ ップ，講演会，講習会などの論文募集・ 参加者募集	1 ページ，1/2 ページ または 1/4 ページ	(主催・共催)	
			1 ページ	50,000 円 (税込 54,000 円)
			1/2 ページ	30,000 円 (税込 32,400 円)
			1/4 ページ	20,000 円 (税込 21,600 円)
			(協賛)	
			広告として取り扱う	
人材募集	国公立教育機関，国公立研究機関， 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関，国公立研究機関	20,000 円 (税込 21,600 円)
			賛助会員（企業）	30,000 円 (税込 32,400 円)
			賛助会員以外の企業	50,000 円 (税込 54,000 円)
			* 本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り，追加料金 4,000 円 (税込 4,320 円) で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。	

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
(1 ページ) 天地 260mm × 左右 175mm
(1/2 ページ) 天地 130mm × 左右 175mm
(1/4 ページ) 天地 65mm × 左右 175mm
* A4 判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。
- 人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。
[募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
* なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限

毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告を IPSJ メールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数：約 25,000 通（原則毎週月曜日配信）
- 読 者 層：本会会員および非会員
- 形 式：テキストのみ。等幅半角 70 字 × 5 行。URL を入れてください。
- 掲載位置：ヘッダ（目次の上）
フッタ（本文の最下行）
- 掲 載 料：ヘッダ：1 回 50,000 円（税込 54,000 円）※3 社限定
フッタ：1 回 20,000 円（税込 21,600 円）
※それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先：[広告代理店]
アドコム・メディア（株）E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切：毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本：

— [広告] —

■■■■ ○○セミナー ■■■■

開催日時：1 月 10 日（火）・11 日（水）・12 日（木）13：00～17：00
会場：○○コンベンションセンター
会費：情報処理学会会員の方には割引があります。
詳細はこちらをご覧ください：http://www.....com/

— [広告] —

■ 各種問合せ先 ■

一般社団法人 情報処理学会（本部）※ 支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担 当	E-mail	Tel(ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会費等口座振替、海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、転載許可、出版、論文誌（デジタルプラクティス）、著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル／トランザクション／JIP）の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、シンポジウム、研究グループ、国際会議、IFIP 委員会
■ 事業部門			
事 業	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、連続 세미나、プログラミング・シンポジウム
■ 管理部門			
総 務	soumu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会、支部、役員選挙、名誉会員
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、電子化委員会、電子図書館、IPSJ メールニュース
図 書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp	標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/	

会誌「情報処理」

デジタルプラクティス **無料**

Newsstandで 購読ができる ようになりました！

会誌「情報処理」と「デジタルプラクティス」が
Apple Newsstandで購読ができるようになりました！
NewsstandはiPad, iPhone, iPod TouchなどのiOSに
プリインストールされている本棚です。

学会誌
日本初！



会誌

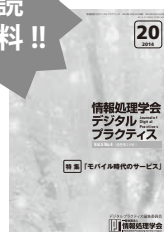
- 月単位の購入が可能です。
- 購入前に立ち読みができますので、ぜひいちどおためしください。
- 年間購読で12,800円（1冊あたり約1,000円）でお得です。
1カ月：1,700円 / 6カ月：9,800円 / 1年：12,800円

DP

- 「デジタルプラクティス」は会員・非会員を問わず、
どなたでも**無料**でお読みいただけます。
- DPアプリを一度ダウンロードすれば、
最新号が自動で送られてきます。

年間購読
でお得！！

購読
無料！！



まわりの方にも
ご紹介ください！

 アプリのダウンロードはこちら（無料）

会誌「情報処理」



<https://itunes.apple.com/us/app/yue-kan-qing-bao-chu-li-qing/id910830137?l=ja&ls=1&mt=8>

デジタルプラクティス



<https://itunes.apple.com/jp/app/qing-bao-chu-li-xue-huidejitarupurakutisu/id923233022?mt=8>

ご意見をお寄せください！

〔7月10日頃までにお出ください〕

宛 先 一般社団法人 情報処理学会 モニタ係（下記のいずれからも送付できます）
<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html> Fax(03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp
 （E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください）
 ※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
<http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>

〔コード〕

- 〔1〕 ご氏名
- 〔2〕 ご所属 Tel. () -
- 〔3〕 E-mail:
- 〔4〕 業種： (a) 企業（サービス業） (b) 企業（製造業） (c) 研究機関 (d) 教育機関（大学・高専など）
 (e) 学生 (f) 学生（ジュニア会員） (g) その他 4- []
- 〔5〕 職種： (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
 (f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教職員（大学・大学院） (h) 教職員（小・中・高校・高専など）
 (i) 学生 (j) 学生（ジュニア会員） (k) その他 5- []
- 〔6〕 年齢： (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6- []
- 〔7〕 性別： (a) 男性 (b) 女性 7- []
- 〔8〕 あなたはモニタですか？： (a) はい (b) いいえ 8- []
- 〔9〕 あなたのご意見は「会員の広場」（会誌およびWeb）に掲載される場合があります。その場合：
 (a) 実名可（氏名のみ掲載） (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9- []
- 〔10〕 今月号（2015年7月号）の記事は良かったですか。下記の記事すべてについて評価をご回答ください。
 [a…大変良い b…良い c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]

- 巻頭コラム：コードすることを学び、学ぶためにコードしよう 10-1- []
- 巻頭言：情報処理技術が牽引する明るい未来—会長就任にあたって— 10-2- []
- 特別解説：うるう秒とは何か 10-3- []
- 小特集：画像認識革命
1. 画像・映像の認識と理解のこれまでとこれから 10-4- []
2. ディープラーニングによる画像認識 10-5- []
3. 画像識別と画像復元 10-6- []
4. ソーシャルネットワークが変える画像の認識・理解 10-7- []
- 小特集：宇宙開発への情報技術の貢献
1. 宇宙システムについて 10-8- []
2. 小惑星探査機「はやぶさ2」 10-9- []
3. 小型天文衛星「Nano-JASMINE」 10-10- []
4. 宇宙ステーション補給機「こうのとり」 10-11- []
5. 準天頂衛星システム 10-12- []
- IT好き放題：最近の大学の研究事情：盆栽研究のススメ 10-13- []
- ピブリオ・トーク：Webの創成 10-14- []
- 古機巡礼/二進伝心：オーラルヒストリー：渡部 和氏インタビュー 10-15- []
- べた語義：新しい学びの機会を広めたい 10-16- []
- べた語義：情報教育と国語教育の連携を考える 10-17- []
- べた語義：Rによる1行プログラミング 10-18- []
- 会議レポート：第77回全国大会 10-19- []
- 会議レポート：CHI 2015 参加報告 10-20- []
- 会議レポート：ソフトウェアアジア2015 報告 10-21- []
- 会誌編集委員会女子部 10-22- []

〔11〕 本号で最も良かった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔11-1〕 良かった記事 11-1- []
- 〔11-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 11-2- []
- 〔11-3〕 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可） 11-3- []
- a) 技術・研究動向がよく分かった b) 知的興味をかきたてられた c) 新たな知識を得ることができた d) 内容が平易で理解しやすかった
 e) その他（具体的に下記にご記入ください）

〔12〕 本号で最も良くなかった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入），その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔12-1〕 良くなかった記事 12-1- []
〔12-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 12-2- []
〔12-3〕 選んだ理由（下記から，いくつでも選択可）..... 12-3- []
a) 記事の内容に誤りがあった b) ありきたりの内容だった c) 記事が難しすぎた d) 何を言いたいのか分からなかった e) 宣伝の意図が強すぎる
f) テーマに興味を持てなかった g) その他（下記に具体的に記入ください）

〔13〕 今月の特集に対する貴方の立場を教えてください。

- 〔13-1〕 画像認識革命：a) 専門家 b) 非専門家 13-1- []
〔13-2〕 宇宙開発への情報技術の貢献：a) 専門家 b) 非専門家 13-1- []

〔14〕 設問〔10〕で読んでいないと答えた記事について，その理由を教えてください。

〔15〕 会誌に対するご意見やご感想，著者への質問，巻頭コラムに登場してほしい人物，今後取り上げてほしいテーマなどありましたらご記入ください。（スペースが足りない場合はお手数ですが別紙を追加してください）

次号（8月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」あこのろの未来

1980年代の未来の映像技術 バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2／攻殻機動隊について／ブレードランナーについて／不自然さがいいことの驚異—ジョーという名のロジック 隠された論理—／コンピュータらしいコンピュータ Hogan「創世記機械」／「男性が好むクリスマス・ギフトを調査しています」～ダニエル・F. ガロイ「模造世界」～／ニューロマンサー ウィリアム・ギブソン／GATTACA（ガタカ）—そう遠くない未来—／マイノリティ・リポートで情報倫理の限界を試せ／「2001年宇宙の旅」の特異点を遡って—究極の「人工知能」はいつ稼働したのか？—

「小特集」宇宙システムのつくりかた

情報技術によって変わる宇宙システムのつくりかた／宇宙システムの開発プロセス／衛星ソフトウェアのつくりかた—ソフトウェア再利用から，検証自動化・効率化まで—／打ち上げ管制システムのつくりかた—小型人工衛星打ち上げ用ロケット「イプシロン」の事例を中心に—／衛星の状態監視システムのつくりかた—過去のデータに基づく異常検知—／衛星のバスのそろえかた—小型衛星「NEXTAR」の事例を中心に—

報 告：2014年度論文賞の受賞論文紹介／2014年度長尾真記念特別賞紹介／2014年度喜安記念業績賞紹介

教育コーナー：ぺた語義

連 載：ビブリオ・トーク／女子部が行く／会誌編集委員会女子部

コラム：巻頭コラム／シニアコラム：IT好き放題

小特集「画像認識革命」の編集を担当した。画像認識は人間には簡単だが、計算機には非常に難しい。そもそも人間にも自分自身がどのように画像を認識しているのか分らない。画像認識の研究の歴史はメカニズムが解明されていない画像認識という人間の機能を何とか計算機に実現しようとする試行錯誤の歴史であり、これまでにさまざまな手法が提案されてきた。その中には、成功したもの、失敗したもの、計算機パワーや利用可能なデータの量の問題など提案当時の状況ではうまくいかなかったが現在改めて注目されている手法などもある。そして近年、画像認識は大幅な性能向上を果たしている。まさに画像認識革命が起こっている。本小特集はこのような革命期にある今こそ、現在の技術状況とそれに至ったこれまでの研究、そしてこれからの課題を改めて整理し、今後の研究の方向性を考えてみるべきという動機で企画した。限られたページ数のため画像認識にまつわるすべては

網羅できなかったが、「人間が行う画像認識」をいかに計算機で実現するかという観点で充実した内容の特集になったと思う。特に「人間には簡単な画像認識」を計算機で実現するために、ニューラルネットワークのように人間の神経細胞をまねたアプローチ、機械学習のように計算機が得意な方法をとるアプローチ、ソーシャルネットワークのように人間が生み出す大量の情報を計算機でマイニングし活用するアプローチと、人間と計算機の各々の長所をうまく使おうとしていることが垣間見られるようで非常に興味深い。

なお、最後になったが、本小特集の各記事を執筆いただいた佐藤真一先生、岡谷貴之先生、原田達也先生、木村昭悟氏に心より感謝する。また佐藤先生にはゲストエディタも引き受けいただいた。重ねてお礼申し上げる。

(永野秀尚／本小特集エディタ)

宇宙特集という、情報処理学会ではあまり取り上げたことのない分野を特集させていただきました。いろいろな方に興味を持っていただけるよう、宇宙全般の取り組みの中で、情報処理と関連の深い部分をできるだけ万遍なく取り上げましたが、いかがでしたでしょうか。今回の特集の発端は昨年(2014年)12月の編集委員会の会議で、会誌にどのような記事を書けるかアイデア出しをしていたときのこと。「そういえば最近、はやぶさ2が打ち上げられたよね。人工知能とか入ってるんだよね?」「イプシロンロケットも、情報技術を活用して安いコストで打ち上げられるようになったらいいよ」「そういえば宇宙分野って情報技術もいろいろ使われているはずだよ

ね、あまり知られていないけど」という会話でした。私は宇宙関連の技術開発の端っこの方を担当した経験があったこともあり、この機会を逃さず小特集にして広く知っていただこうと思い、編集を担当させていただきました。勢い余って3回連続の大特集にしようとしたのですが、間延びするからと「待った」がかかり、2回連続の内容がぎゅっと詰まった小特集となりました。次回をお楽しみにしていただけると幸いです。この特集を通じて、宇宙に携わる情報処理の研究者、技術者が増えますように。

(北村操代／本小特集エディタ)

訂 正

本誌 56 巻 6 号 (2015 年 6 月号) の解説「Computational Thinking 計算論的思考」に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P.585 右段 4 行目

(誤) それはグリッドロック (超渋滞)、デッドロックを判定し、コントラクトインタフェースを起動することである。

(正) それは (世の中で超渋滞と呼ばれている) グリッドロックをデッドロックと呼び、(世の中で契約と呼ばれている) コントラクトをインタフェースと呼ぶことである。

P.585 右段 32 行目

(誤) これは AI の解決困難な課題を利用して計算エージェントに箔を付けることである。

(正) これは AI の解決困難な問題 (の性質) を利用して、(悪意のある) 計算エージェントを妨害することである。

P.586 右段 6 行目

(誤) 皮肉なことに、コンピュータが人間のように考えるという AI のグランドチャレンジをコンピュータ科学が解決するまでは、思考は機械的である。

(正) 皮肉なことに、コンピュータが人間のように考えるという AI のグランドチャレンジをコンピュータ科学が解決すると、思考は機械的であることになってしまうが。

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	330,000 円 (税込 356,400 円)	—	—
表 3	275,000 円 (税込 297,000 円)	—	—
表 4	385,000 円 (税込 415,800 円)	—	—
表 2 対向	300,000 円 (税込 324,000 円)	—	—
表 3 対向	265,000 円 (税込 286,200 円)	190,000 円 (税込 205,200 円)	155,000 円 (税込 167,400 円)
前付 1 頁	250,000 円 (税込 270,000 円)	165,000 円 (税込 178,200 円)	135,000 円 (税込 145,800 円)
前付 1/2 頁	—	—	80,000 円 (税込 86,400 円)
前付最終	—	—	148,000 円 (税込 159,840 円)
目次前	—	—	148,000 円 (税込 159,840 円)
差込 (A 判 70.5kg 未満 1 枚)	275,000 円 (税込 297,000 円)		
差込 (A 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	350,000 円 (税込 378,000 円)		
同封 (A 判 1 枚)	350,000 円 (税込 378,000 円)		

■「情報処理」

発 行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000 部
 体 裁 A4 判
 発 行 日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm× 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm× 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm× 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア (株) (Tel/Fax/E-mail は下に記載)

* 原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 * 同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック ☐ を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア (株) 宛にご請求ください。

■「情報処理」 56 巻 7 号 掲載広告（五十音順）

☐ インタフェース 表 2 ☐ フォーラムエイト 表 3

☐ すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア (株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

**MITSUBISHI
ELECTRIC**
Changes for the Better

三菱電機 (株)

CyberAgent

(株) サイバーエージェント

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)

RECRUIT

(株) リクルートホールディングス

Google

グーグル (株)

GREE

グリー (株)

docomo

(株) NTT ドコモ

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

日本マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)

NTT Data

NTT データ (株)

OKI

沖電気工業 (株)

楽R天

楽天 (株)

JISA

情報サービス産業協会

NTTコムウェア

NTT コムウェア (株)

uejima

(株) うえじま企画

SANBI

三美印刷 (株)

SONY

ソニー (株)

Panasonic

パナソニック (株)

FORUM 8

(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (2口)

KDDI

(株) KDDI 研究所

NTTAT

NTT アドバンステクノロジー (株)

NTTソフトウェア

NTT ソフトウェア (株)

SPC

三協印刷 (株)

JR

鉄道情報システム (株)

KCT

(株) ナレッジクリエーション
テクノロジー

放送技術研究所

日本放送協会
放送技術研究所

HITACHI
Inspire the Next
日立システムズ

(株) 日立システムズ

インテル (株)

【A～Z】

(株) ATR-Trek
(株) CIJ
(株) CIJ ネクスト
(株) HBA
(株) IT 働楽研究所
JRC エンジニアリング(株)
(株) J R 東日本情報システム
(株) JTB コーポレートセールス
法人営業川崎支店
(株) K & S
(株) KDDI 研究所
MHI エアロスペースシステムズ(株)
(株) NEC 情報システムズ
NEC ソリューションイノベータ(株)
プラットフォーム第二事業本部
NEC ソリューションイノベータ(株)
技術統括部
NEC ソリューションイノベータ(株)
東海支社
NEC ソリューションイノベータ(株)
東北支社
NEC フィールドディング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コムウェア(株)
NTT ソフトウェア(株)
(株) NTT データ
(株) NTT データ・アイ
(株) NTT データ関西
(株) NTT データ九州
(株) NTT データ東海
(株) NTT データ東北
(株) NTT ドコモ
(株) OKI ソフトウェア
(株) PFU
SCSK (株)
TDC ソフトウェアエンジニアリング
(株)
TIS (株)
(株) UBIC

【あ行】

アートシステム(株)
アイアンドエルソフトウェア(株)
(株) アイヴィス
(株) アイ・エス・ビー
アイシン・コムクルーズ(株)
アイシン精機(株)
(株) アイズファクトリー
アドコム・メディア(株)
(株) アドバンス トラフィック シス
テムズ
(株) アドバンス・メディア
(株) アルファシステムズ
(株) いい生活
(株) イーブックイニシアティブジャ
パン
池上通信機(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)

(株) インテック
インテル(株)
インフォサイエンス(株)
(株) ヴァル研究所
ヴィスコ・テクノロジーズ(株)
(株) うえじま企画
(株) エイ・ダブリュ・ソフトウェア
(株) エクサ
エクセルソフト(株)
(株) エスケーエレクトロニクス
エヌ・ディー・アール(株)
(株) エルザジャパン
オークマ(株)
(株) 大塚商会
(株) オーム社
沖電気工業(株)
(株) 小野仁
オムロン(株)

【か行】

国立研究開発法人 科学技術振興
機構
(公財) 画像情報教育振興協会
(学) 片柳学園日本工学院八王子
専門学校
関西テレビソフトウェア(株)
関電システムソリューションズ(株)
(一財) 機械振興協会
キャノン(株)
キャノン(株) 総合 R&D 研究開発
推進部
キャノン IT ソリューションズ(株)
キャノン IT ソリューションズ(株)
R&D センター
(公財) 九州先端科学技術研究所
共立出版(株)
(株) 近代科学社
グーグル(株)
グリー (株)
(株) コア 中四国カンパニー
(株) 構造計画研究所
国土館大学図書館・情報メディア
センター
国立国会図書館
コニカミノルタ(株)

【さ行】

(株) サイバーエージェント
サクサ(株)
サクシード(株)
三協印刷(株)
三美印刷(株)
(株) シーエーシー
(株) ジーダット
(株) ジェイアールシステム・エンジ
ニアリング
システム・オートメーション(株)
シャープ(株)
(株) ジャステック

(株) ジャパンテクニカルソフトウェア
(一社) 情報サービス産業協会
(独) 情報処理推進機構
新日鉄住金ソリューションズ(株)
住友電気工業(株)
(株) セガゲームス
(株) セカンドセクション
セコム(株)
ソニー (株)
ソニーグローバルソリューショ
ンズ(株)
(株) ソフトウェアコントロール
(一財) ソフトウェア情報センター
ソフトウェア特許情報センター
ソフトバンクモバイル(株)

【た行】

(株) 中電シーティーアイ
(一社) 中部産業連盟
中部電力(株)
通研電気工業(株)
テービーテック(株)
デジタルプロセス(株)
鉄道情報システム(株)
(公財) 鉄道総合技術研究所
(公財) 電気通信普及財団
(社) 電子情報技術産業協会
(株) 電盛社
(株) デンソー
(株) デンソー IT ソリューションズ
(株) デンソーアイティラボラトリ
(株) デンソークリエイト
(株) 電通国際情報サービス
(一財) 電力中央研究所
東海ソフト(株)
東海旅客鉄道(株)
(株) 東芝
東芝インフォメーションシステムズ
(株)
東芝システムテクノロジー (株)
東芝情報システム(株)
東芝ソリューション(株)
東芝マイクロエレクトロニクス(株)
東芝メディカルシステムズ(株)
(株) 東和システム
トヨー企画(株)
特許庁
(株) トヨタコミュニケーションシス
テム
トヨタ自動車(株)
(株) 豊田中央研究所
(株) トヨタデジタルクルーズ
(株) ドワンゴ

【な行】

(株) ナレッジクリエーションテクノ
ロジー
(株) ニコンシステム
日鉄日立システムエンジニアリング

(株)
日本アルゴリズム(株)
日本電気(株)
(株) 日本電気特許技術情報セン
ター
日本アイ・ビー・エム(株)
(公社) 日本化学会
日本銀行
国立研究開発法人 日本原子力研
究開発機構
日本証券テクノロジー (株)
(一財) 日本情報経済社会推進協
会
(一社) 日本情報システム・ユーザー
協会
日本信号(株)
日本電子計算(株)
日本電信電話(株)
(一財) 日本品質保証機構
日本放送協会 放送技術研究所
日本マイクロソフト(株)
日本無線(株)
日本ユニシス(株)
(株) 日本旅行
(株) 野村総合研究所

【は行】

(株) ハイエレコン
パイオニア(株)
萩原電気(株)
(有) バクサリー
パナソニック(株)
パナソニック(株) エコソリューショ
ンズ社
(株) 日立国際電気
(株) 日立産業制御ソリューション
ズ
(株) 日立システムズ
(株) 日立製作所 情報・通信シス
テム社
(株) 日立製作所 中国支社
(株) 日立ソリューションズ
(株) 日立ソリューションズ・クリエ
イト
(株) 日立ソリューションズ西日本
(株) 日立ソリューションズ東日本
(株) 日立テクニカルコミュニケー
ションズ
(株) ファースト
(株) フォーカスシステムズ
(株) フォーラムエイト
(株) フジキカイ 名古屋工場
富士通(株)
(株) 富士通アドバンスエンジニア
リング
(株) 富士通エフサス
(株) 富士通九州システムズ
(株) 富士通システムズ・イースト
(株) 富士通システムズ・ウエスト

(株)富士通ソーシャルサイエンス
ラボラトリ
フジテック(株)
富士フィルム(株)
船井電機(株)
フューチャーアーキテクト(株)
ブラザー工業(株)
古野電気(株)
(株)堀場製作所
(株)本田技術研究所基礎技術研
究センター

【ま行】

マツダ(株)
三井情報(株)

(株)ミックナイン
(株)ミットヨ
三菱UFJモルガン・スタンレー証
券(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株)
三菱電機(株)
三菱電機インフォメーションシス
テムズ(株)
三菱電機インフォメーションネット
ワーク(株)
三菱電機コントロールソフトウェ
ア(株)
三菱電機メカトロニクスソフトウェ
ア(株)
(株)三菱東京UFJ銀行
三菱プレシジョン(株)

武蔵野美術大学
(株)メイテツコム

【や行】

ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究
所
ヤマハ(株)
横河電機(株)

【ら行】

楽天(株)
リードエグジビションジャパン(株)
(株)リクルートホールディングス
(株)リコー

(株)リナックス総合研究所
(株)リンクレア

注) 一般社団法人・一般財団法人・公益
社団法人・公益財団法人はそれぞれ (一
社)・(一財)・(公社)・(公財) と省略した。

協力協定学会との正会員会費相互割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/member/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率（正会員会費が割引対象）

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/annai/kanrenlink/kaigaikanren.html>) を
ご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、次のフォームから申請してください。8月以降の申請は次年度会費を割引します。

正会員会費割引申請フォーム (<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-seikaiin-kaihiwaribiki.html>)

初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は1学会分といたします。

※これから入会を希望する方も同様に申請できます。入会申込書（正会員）(https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai_sei.html) をご確認ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375